

2017年度決算

2017(平成29)年度決算は、学園監事による監査を受けた後、5月29日開催の理事会において承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2017年度決算の概要

はじめに

経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。事業活動収支計算書は、経常的収支(「教育活動外収支」)及び臨時収支(「特別収支」)を区分して、それぞれの収支状況を把握できるように作成されています。また、毎期の収支状況を把握できるように現行の基本金組入後の収支差額に加えて、基本金組入前の収支差額が表示されています。

財務情報の公開と閲覧

私立学校法が改正され、2005年4月から財務情報の公開が義務化されました。これに伴い、在学生及び学費受弁者、卒業生、教職員、入学予定者等に対し、2017年度「財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書、監事による監査報告書」を閲覧に供しますので、当別キャンパスは経営企画部財務課、札幌あいの里キャンパスは学務部心理科学課に申し願います。また、大学ホームページにも財務情報を公開しております。

なお、学校会計基準改正により2015年度より消費収支計算書が事業活動収支計算書に変更となり、資金収支計算書の付属表として活動区分資金収支計算書が新たに追加されました。

【資金収支計算書】

収入に関しては、学生生徒等納付金収入が予算比8,781万円減、手数料収入が予算比1,600万円減、寄付金収入が予算比1,321.7万円増、補助金収入が予算比3,000万円増、資産売却収入が予算比87万円増、付随事業・収益事業収入が予算比9,712万円減、受取利息・配当金収入が予算比370万円増、雑収入が予算比3,938万円減となりました。収入の計は予算比3,017.1万円減の91億3,961万円となりました。

【事業活動収支計算書】

事業活動収入は予算比2億3,792万円減の91億4,927万円、事業活動支出は予算比1億

3,520万円減の91億6,149万円となり、基本金組入前当年度収支差額は予算比1億271万円減の5,657万円のマイナスとなりました。また、基本金組入額は予算比2億3,734万円減の3億1,260万円となり、その結果、当年度収支差額は3億6,917万円のマイナスとなりました。また、基本金取崩額は1億8,172万円となり、翌年度繰越収支差額は、146億4,372万円となりました。

【貸借対照表】

総資産338億5,248万円のうち、固定資産は26億6,837万円、流動資産は71億6,871万円となりました。流動資産のうち現金預金は46億5,922万円です。総負債37億1,761万円のうち、固定負債は24億4,267万円、流動負債は12億7,494万円となりました。これらの結果、総資産から総負債を差し引いた正味資産は301億3,487万円となり、前年対比5,657万円減少しました。

資金収支計算書

| 【収入の部】 | 科目 | (単位:円) | | | 【支出の部】 | 科目 | (単位:円) | | |
|--------------|----------------|----------------|--------------|--------------|----------------|----------------|--------------|----|----|
| | | 予算 | 決算 | 増減 | | | 予算 | 決算 | 増減 |
| 学生生徒等納付金収入 | 6,367,538,000 | 6,279,722,510 | 87,815,490 | 人件費支出 | 5,312,682,000 | 5,259,528,810 | 53,153,190 | | |
| 手数料収入 | 104,543,000 | 88,541,000 | 16,002,000 | 教育研究経費支出 | 2,390,798,317 | 2,344,047,114 | 46,751,203 | | |
| 寄付金収入 | 58,000,000 | 190,178,732 | △132,178,732 | 管理経費支出 | 475,100,683 | 528,717,881 | △53,617,198 | | |
| 補助金収入 | 988,053,000 | 958,048,477 | 30,004,523 | 借入金等利息支出 | 3,000,000 | 2,942,136 | 57,864 | | |
| 資産売却収入 | 40,000,000 | 39,126,100 | 873,900 | 借入金等返済支出 | 100,000,000 | 100,000,000 | 0 | | |
| 付随事業・収益事業収入 | 1,396,288,000 | 1,199,167,554 | 197,120,446 | 施設関係支出 | 280,076,000 | 121,748,539 | 158,327,461 | | |
| 受取利息・配当金収入 | 40,030,000 | 43,735,030 | △3,705,030 | 設備関係支出 | 31,555,000 | 290,308,762 | 27,246,238 | | |
| 雑収入 | 323,389,000 | 284,004,284 | 39,384,716 | 資産運用支出 | 0 | 0 | 0 | | |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 | その他の支出 | 744,666,611 | 749,252,283 | △4,585,672 | | |
| 前受金収入 | 685,480,000 | 637,458,500 | 48,021,500 | 予備費 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 | | |
| その他の収入 | 446,803,253 | 459,150,777 | △12,347,524 | 資金支出調整勘定 | △610,000,000 | △499,902,687 | △110,097,313 | | |
| 資金収入調整勘定 | △1,280,337,500 | △1,039,518,732 | △240,818,618 | 当年度資金支出合計(B) | 9,043,878,611 | 8,964,842,838 | 147,235,773 | | |
| 当年度資金収入合計(A) | 9,169,786,903 | 9,139,614,232 | 30,172,671 | 当年度繰越収支差額 | 6,642,165,715 | 6,759,228,817 | △117,063,102 | | |
| 前年度繰越収支差額 | 6,516,257,423 | 6,516,257,423 | 0 | 支出の部合計 | 15,686,044,326 | 15,655,871,655 | 30,172,671 | | |
| 収入の部合計 | 15,686,044,326 | 15,655,871,655 | 30,172,671 | | | | | | |

事業活動収支計算書

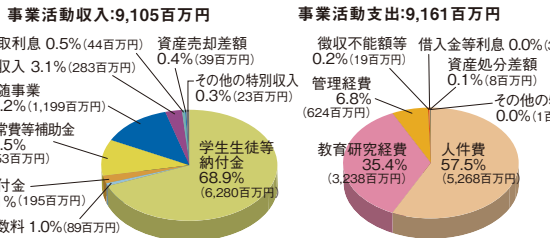
| 【総括表】 | 科目 | (単位:円) | | |
|---------------|-------------|-----------------|-----------------|--------------|
| | | 予算 | 決算 | 増減 |
| 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 6,367,538,000 | 6,279,722,510 | 87,815,490 |
| | 手数料 | 104,543,000 | 88,541,000 | 16,002,000 |
| | 寄付金 | 58,000,000 | 195,171,743 | △137,171,743 |
| | 経常費等補助金 | 975,053,000 | 952,949,811 | 22,103,189 |
| | 付随事業収入 | 1,396,288,000 | 1,199,167,554 | 197,120,446 |
| | 雑収入 | 323,389,000 | 283,274,732 | 40,114,268 |
| | 教育活動収入計 | 9,224,811,000 | 8,998,827,350 | 225,983,650 |
| 事業活動支出の部 | 人件費 | 5,316,860,800 | 5,268,160,510 | 48,700,290 |
| | 教育研究経費 | 3,357,234,317 | 3,237,739,316 | 119,495,001 |
| | 管理経費 | 574,914,683 | 624,739,764 | △49,825,081 |
| | 徴収不能額等 | 4,690,000 | 19,020,528 | △14,330,528 |
| | 教育活動支出計 | 9,253,699,800 | 9,149,660,118 | 104,039,682 |
| 教育活動収支差額 | | △28,888,800 | △150,832,768 | 121,943,968 |
| 収入の部 | 受取利息・配当金 | 40,030,000 | 43,735,030 | △3,705,030 |
| | その他の教育活動収入 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収入計 | | 40,030,000 | 43,735,030 | △3,705,030 |
| 支出の部 | 借入金等利息 | 3,000,000 | 2,942,136 | 57,864 |
| | その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外支出計 | | 3,000,000 | 2,942,136 | 57,864 |
| 特別収支 | 教育活動外収支差額 | 37,030,000 | 40,792,894 | △3,762,894 |
| | 経常収支差額 | 8,141,200 | △110,039,874 | 118,181,074 |
| | 資産売却差額 | 40,000,000 | 39,126,370 | 873,630 |
| | その他の特別収入 | 38,000,000 | 23,231,406 | 14,768,594 |
| | 特別収入計 | 78,000,000 | 62,357,776 | 15,642,224 |
| | 資産売却差額 | 10,000,000 | 8,214,460 | 1,785,540 |
| | その他の特別支出 | 0 | 676,548 | △676,548 |
| | 特別支出計 | 10,000,000 | 8,891,008 | 1,108,992 |
| | 特別収支差額 | 68,000,000 | 53,466,768 | 14,533,232 |
| 予備費 | | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | 46,141,200 | △56,573,106 | 102,714,306 |
| 基本金組入額合計 | | △549,952,000 | △312,605,185 | △237,346,815 |
| 当年度収支差額 | | △503,810,800 | △369,178,291 | △134,632,509 |
| 前年度繰越収支差額 | | △14,456,275,516 | △14,456,275,516 | 0 |
| 基本金取崩額 | | 0 | 181,725,454 | △181,725,454 |
| 翌年度繰越収支差額 | | △14,960,086,316 | △14,643,728,353 | △316,357,963 |

【参考】

| (単位:円) | | | |
|---------|---------------|---------------|-------------|
| 事業活動収入計 | 9,342,841,000 | 9,104,920,156 | 237,920,844 |
| 事業活動支出計 | 9,296,698,000 | 9,161,493,262 | 135,206,538 |

| 【収入の部】 | | | 【支出の部】 | | |
|--------------|----------------|----------------|--------------|----------------|----------------|
| 科目 | 予算 | 決算 | 科目 | 予算 | 決算 |
| 学生生徒等納付金収入 | 6,367,538,000 | 6,279,722,510 | 人件費支出 | 5,312,682,000 | 5,259,528,810 |
| 手数料収入 | 104,543,000 | 88,541,000 | 教育研究経費支出 | 2,390,798,317 | 2,344,047,114 |
| 寄付金収入 | 58,000,000 | 190,178,732 | 管理経費支出 | 475,100,683 | 528,717,881 |
| 補助金収入 | 988,053,000 | 958,048,477 | 借入金等利息支出 | 3,000,000 | 2,942,136 |
| 資産売却収入 | 40,000,000 | 39,126,100 | 借入金等返済支出 | 100,000,000 | 100,000,000 |
| 付随事業・収益事業収入 | 1,396,288,000 | 1,199,167,554 | 施設関係支出 | 280,076,000 | 121,748,539 |
| 受取利息・配当金収入 | 40,030,000 | 43,735,030 | 設備関係支出 | 31,555,000 | 290,308,762 |
| 雑収入 | 323,389,000 | 284,004,284 | 資産運用支出 | 0 | 0 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | その他の支出 | 744,666,611 | 749,252,283 |
| 前受金収入 | 685,480,000 | 637,458,500 | 予備費 | 30,000,000 | 30,000,000 |
| その他の収入 | 446,803,253 | 459,150,777 | 資金支出調整勘定 | △610,000,000 | △499,902,687 |
| 資金収入調整勘定 | △1,280,337,500 | △1,039,518,732 | 当年度資金支出合計(B) | 9,043,878,611 | 8,964,842,838 |
| 当年度資金収入合計(A) | 9,169,786,903 | 9,139,614,232 | 当年度繰越収支差額 | 6,642,165,715 | 6,759,228,817 |
| 前年度繰越収支差額 | 6,516,257,423 | 6,516,257,423 | 支出の部合計 | 15,686,044,326 | 15,655,871,655 |
| 収入の部合計 | 15,686,044,326 | 15,655,871,655 | | | |

■2017年度事業活動収支の構成比率



貸借対照表

| (2018年3月31日) | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|--------------|
| 【資産の部】 | | | |
| 科目 | 2017年度末 | 2016年度末 | 増減 |
| 固定資産 | 26,683,769,473 | 27,242,902,435 | △559,132,962 |
| 有形固定資産 | 19,001,188,618 | 19,564,670,964 | △563,482,346 |
| 特定資産 | 7,100,000,000 | 7,100,000,000 | 0 |
| その他の固定資産 | 582,580,855 | 578,231,471 | 4,349,384 |
| 流動資産 | 7,168,712,807 | 6,968,499,581 | 200,213,226 |
| 資産の部合計(A) | 33,852,482,280 | 34,211,402,016 | △358,919,736 |
| 【負債・純資産の部】 | | | |
| 科目 | 2017年度末 | 2016年度末 | 増減 |
| 固定負債 | 2,442,671,422 | 2,534,039,722 | △91,368,300 |
| 流動負債 | 1,274,940,821 | 1,485,919,151 | △210,978,330 |
| 負債の部合計(B) | 3,717,612,243 | 4,019,958,873 | △302,346,630 |
| 第1号基本金 | 44,047,598,390 | 43,916,718,659 | 130,879,731 |
| 第3号基本金 | 100,000,000 | 100,000,000 | 0 |
| 第4号基本金 | 631,000,000 | 631,000,000 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | △14,643,728,353 | △14,456,275,516 | △187,452,837 |
| 負債・純資産の部合計 | 33,852,482,280 | 34,211,402,016 | △358,919,736 |
| 正味資産(A)-(B) | 30,134,870,037 | 30,191,443,143 | △56,573,106 |

■主な事業の実績 2017年度事業計画に基づく、主な事業進捗状況は、以下のとおりです。

■教育及び学生支援活動

【大学院】

- 1.リハビリテーション科学研究所リハビリテーション科学専攻博士(後期)課程の完成 2015(平成27)年4月に開設したリハビリテーション科学専攻博士(後期)課程が完成年度を迎え、高度化・多様化が進む現代の保健・医療・福祉分野において、先進的専門知識と技術をもつ質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人ならびにリハビリテーション領域に関わる最先端教育を通して培われた指導的な役割を担う人材の養成に努めました。
- 2.地域包括ケアセンターを活用した大学院教育の充実・強化 地域包括ケアセンターを活用し、大学院看護福祉学研究所看護福祉学専攻において、認知症ケアの知識や技術強化及びがん専門看護師・ナースプラクティショナー(NP)等の養成課程における臨床・研究に活用し、更なる教育・研究の充実を図りました。
- 3.専門看護師(CNS)の養成 大学院看護福祉学研究所では、専門分野として特定されている13分野(2016(平成28)年12月現在)のうち、がん看護を昨年度更新したほか、2017(平成29)年度は慢性看護、老年看護、精神看護の3分野を26単位から38単位へ切り替え、在宅看護の新規申請を行いました。感染看護も含めた6分野については、引き続き、その養成に努めました。
- 4.特定行為研修およびナースプラクティショナー(NP)の養成 大学院看護福祉学研究所では、2010(平成22)年度から、5年以上の実務経験を積んだ看護師を対象に、医師と協働して作成したプロトコル内「診断・治療」が提供できるナースプラクティショナー(NP)の養成を行っており、2017(平成29)年度についても引き続き、その養成に努めました。
- 5.奨学生セミナー(学内就職相談会) 将来、高度専門職業人もしくは教育・研究者として広く活躍する人材を育成するため、特に学業成績および人材に優れた大学院修士課程および博士課程入学者に対し、その経済的支援として「大学院奨学生」制度を実施しました。

【学部】

- 1.心理科学部の当別キャンパスへの移転 大学全体の活性化に向けて、教育・研究・臨床を包括した大学の機能と役割を充実するため、2015(平成27)年4月に開始した心理学部の当別キャンパスへの移転事業は3年目を迎え、年次計画に基づき事業を推進しました。
- 2.リハビリテーション科学部改組(言語聴覚療法学科) 2015(平成27)年4月に改組したリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科は3年目を迎え、年次計画に基づき事業を推進しました。
- 3.多職種連携教育及び実習教育の充実・強化 地域包括ケアセンターを活用し、地域医療・在宅ケア及び学部学科の枠を超

- えた多職種連携による実習教育の充実・強化に努めました。
- 4.リメディアル教育の充実・支援 第1学年における基礎学力の定着、高校未修得科目の補充教育の充実、学修習慣の修得を目的としたリメディアル教育を支援し、学修の向上に努めました。なお、薬学部においては、2017(平成29)年度より新たに新規特別講習会(5月から7月の土・日)及び秋季特別講習会(10月から11月の土・日)を実施しました。
- 5.国家試験対策の充実・支援 教育力向上の一環として、国家試験合格者の向上を図るため模擬試験や予備校の補充講義の充実、個別指導の強化、国家試験対策用のシステム構築を行い、スマートフォンによる学習機会を可能にするなど、各学部・学科独自の取り組みを行い、国家試験対策を充実させました。
- 6.教育支援体制の強化 全学部において入学前教育を実施しました。また、全学部を設置している教育支援室または学生支援センターにおいて、個別学習相談・指導、生活支援、リメディアル教育、補修授業の開講等を展開し、学習支援の充実にも努めました。
- 7.アドミッションセンター設置 2017(平成29)年4月、入試改革に取り組む体制の整備・強化及び入学選抜の円滑な実施に資することを目的として「アドミッションセンター」を設置し、優秀かつ多様な人材の確保に努めました。
- 8.IR(Institutional Research)組織設置 2017(平成29)年4月、学務部にIR課を設置し、教学等に関する情報の収集・分析、活用により、教育等の改善に努めました。
- 9.就職・キャリア支援 ①薬学生セミナー(学内就職相談会) 2017(平成29)年4月に薬学部を対象に道内外の病院、薬局、製薬企業、行政機関等、182団体の参加を得て開催しました。②学内合同就職相談会の開催(看護福祉学部、心理学部) 2017(平成29)年9月に臨床福祉学科、臨床心理学部を対象に、北海道内外の病院、介護老人保健施設、社会福祉施設、行政機関など、88団体の参加を得て開催しました。③就職セミナーの開催 2017(平成29)年9月に歯学部附属歯科衛生専門学校を対象に、道内の歯科医14団体の参加を得て開催しました。④学内合同就職相談会の開催(心理科学部・リハビリテーション科学部) 2017(平成29)年10月に言語聴覚療法学科、理学療法学科、作業療法学科を対象に、北海道内外の病院、介護老人保健施設、社会福祉施設、行政機関など、119団体の参加を得て開催しました。

10.奨学生及び経済的支援の充実

- ①「薬学部・経済的支援奨学生」制度の実施 本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究所博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志望する人物・学業成績ともに優れた者に対し、国立大学の学納金の差額相当分を減免する「薬学部・経済的支援奨学生」制度を実施しました。
 - ②「薬学部特待奨学生」制度の実施 将来活躍が期待される人間性豊かな薬剤師を育成するため、学業成績および人物に優れた薬学部入学者に対し、国立大学の学納金の差額相当分を減免する「薬学部特待奨学生」制度を実施しました。
 - ③「歯学部特待奨学生」制度の実施 将来、歯科医学・歯科医療の分野をリードするという高い志を持ち、人物・学業成績ともに優れた歯学部入学者に対し、その経済的支援として、在学中の6年間学納金(在学立大学の水準以下とする)「歯学部特待奨学生」制度を実施しました。
 - ④「歯学部教育充実費」減免の実施 本学歯学部卒業生の子女に対し、歯学部教育充実費の減免を実施しました。
 - ⑤「福祉・介護人材育成奨学生」制度の実施 人材不足が社会問題となっている福祉・介護専門職の人材育成を図るため、人物・学業成績ともに優れた臨床福祉学科入学者に対し学納金を4年間で390万円減免する「福祉・介護人材育成奨学生」制度を実施しました。
- 【臨床衛生専門学校】
- 1.奨学生及び経済的支援 ①歯学部附属歯科衛生専門学校学生の入学金減免の実施、A.O.推薦入学者に対する入学金減免制度(半額免除)を実施しました。
- 【全学共通】
- 1.奨学生及び経済的支援 ①「夢つなぎ入試」の実施 経済的理由により進学が困難な状況にある受験生を対象とした「夢つなぎ入試」を実施しました。②入学奨励金支給制度の実施 本学卒業生の子や兄弟姉妹で二人以上の入学者を対象とする「入学奨励金」制度(入学相当額)に加え、本学を卒業又は退学のため、改めて本学他学科に入学した場合は、入学相当額の奨励金を支給する制度を実施しました。
 - ③震災被災者被害者に対する入学検定料・入学金免除制度の実施 震災被災者又は災害救助法の適用を受けた地域に居住し、本学に入学を志願する者又は入学手続きを行う者の入学検定料および入学金を免除する制度を実施しました。

■主な事業の実績(つづき)

■研究活動

- 1.厚生労働省「厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)」採択事業の推進
がん予防研究所が中心となって申請を行い採択された2017(平成29)年度厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)「口腔内細菌叢を介した、糖尿病と全身疾患との関わりとその予防戦略」について、事業計画に基づき推進しました。
- 2.文部科学省「研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」採択事業の推進
2017(平成29)年度文部科学省「研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」に採択された「人と医を結ぶ北海道がん医療拠点形成費等補助金」について、事業計画に基づき推進しました。「がんアロプロフェッショナル養成プラン」(第1期)、「がんアロプロフェッショナル養成推進プラン」(第2期)から引き続き、今期(第3期)も札幌医科大学・北海道大学、旭川医科大学の4大学共同により事業を推進していきます。
- 3.外部資金の導入
科学研究費など競争的研究資金へより積極的申請を行うとともに、寄付金や受託研究費など外部資金の導入を図っています。なお、2018(平成30)年度科学研究費への申請を1月に行いました。
- 4.「教育力向上改善プログラム」の公募
本学で行われた教育の質的向上または改善する取り組みを支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的に、学長裁量予算を措置し予算配付しています。(決定3件)
- 5.長岡技術科学大学との研究交流の推進
2014(平成26)年12月に、国立大学法人長岡技術科学大学と研究交流に関する協定を締結しました。研究交流は、長岡技術科学大学が採択した文部科学省地域産業連携科学技術振興事業補助金「大学発新産業創出拠点プロジェクト(通称「START事業」)」について、医療系総合大学としての本学の特色を生かし、当該プロジェクトを構成する研究の一部に参画しています。

■診療活動

- 1.大病院では延患者数4,375名増、医療収入27,130千円増、前年度実績を患者数、医療収入はともに下回りました。歯科クリニックは延患者数932名増、医療収入は1,173千円増いずれも前年度実績を上回りました。また、大病院の病床(24床)稼働率は37.3%(2016年度:35.2%)となりました。地域包括ケアセンターでは、訪問看護は利用者数200名増、訪問看護収入10,723千円増、居宅介護は利用者数112名増、居宅介護収入973千円増といずれも前年度実績を上回りました。

■社会貢献・連携

- 1.地域連携
地域包括ケアセンターにおいて、地域交流サロンの開設、地域住民のための健康づくり支援事業として健康相談の実施及び認知症患者及び家族の支援事業として、認知症サポート養成、啓発講座、認知症カフェ等の事業を開催しました。
- 2.差別・障がい者の包括連携協定の推進
2013(平成25)年に締結した差別及び障がい者の包括連携協定に基づき、本学が有する知的財産、教育研究施設を活用し、保健・医療・福祉をはじめとする幅広い分野において、連携推進協議会及び各部会を立ち上げ当該事業について推進しています。
- 3.北海道「介護従事者確保総合推進事業(介護のしごと魅力アップ事業)」採択事業の推進
高校生、高校生の父母、高校教員を対象に、福祉・介護の仕事のイメージアップ

と理解の促進を図り、より多くの学生が、次世代の福祉を担う人材を目指すための意識向上を図るとした当該事業について推進しました。

4.高大連携

社会貢献の一環と位置付け、高大連携事業として、高校からの要請に応じ、本学教員を派遣しての模範講義および本学にて受け入れた体験学習やインターシップを実施しました。

■生涯学習

- 1.薬剤師支援センターにおける薬剤師研修の実施
医療現場において、薬剤師が期待される職務を果たすためには、生涯にわたって継続した自己学習・研修が求められています。これら生涯学習を自己責任のもとで行い、自らスキルアップを図る薬剤師を対象として認定薬剤師が制度化されています。2011(平成23)年度に学内認定制度事業(認定薬剤師支援センター)が薬剤師認定制度機構より認定され7年目となりました。当該支援センターにおいて、引き続き、認定薬剤師研修制度に関する事業を中心として、医療現場との共同研究の推進及び連携事業を実施しています。
- 2.認定看護師(CN)の養成
認定看護師は、「日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者」と定義されています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、現在感染管理、認知症看護分野の2分野を開設し、その養成に努めました。
- 3.公開講座
認定テーマに沿った内容の充実等、一般向け、卒業生・職能人向けともに本学の特色を生かした講座を継続的に実施しました。
- 4.市民医療セミナー
2016(平成28)年4月に北洋銀行と締結した包括連携協定に基づき、市民の健康増進に地域医療への貢献に資することを目的として、「市民医療セミナー」を開催しました。

■国際交流

- 1.大学・学部間交流
本学では、平成28年度までに大学間5大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナコ大学・極東国立総合医科大学)、学部間8大学(同済大学・ニューヨーク州立大学ブロンクス校・インドネシア大学・ストラスブル大学・中山大・マヒラ大学・エチオピア大学・フティンジュロバ大学)、1医療機関(ニュージーランド病院)と連携協定を締結し、教育及び学術における国際交流を推進しています。さらに、平成29年度においては国立モナコ医科大学(モナコ)、国立プリンシパル医科大学(ポーランド)、医療従事者職能向上研修機関(ロシア)の2大学については、薬学部、歯学部、看護福祉学部、歯科衛生士専門学校において7-8月の間に中山大(歯学部4名)、ストラスブル大(歯学部2名)、極東国立総合医科大学(歯学部1名)、台北医学大学(薬学部1名、歯学部3名、看護福祉学部5名)の計16名を受け入れ、授業をはじめ実習を実施しました。また2018(平成30)年2月-3月には薬学部(3名)、歯学部(16名)、看護福祉学部(5名)の学生を台北医学大学等の海外提携大学や医療機関へ派遣しました。
- 2.語学研修
2017(平成29)年8月にアルバータ大学にて語学研修を実施しました。(参加者数:12名)
- 3.ロシアとの交流推進
ロシア関係では、2017(平成29)年に極東国立医科大学から5名の研究者を本学に招き合同医療シンポジウムを開催しました。また、11月には茂香学長がロシア連邦大統領府属公共政策アカデミーにて「ロシアにおける胃がん予

防」と題して講演を行いました。

■広報活動

募集広報として新聞や進学雑誌などの広告掲載、またターゲット地域を絞って交通広告を出しています。ホームページの機能面の拡充、メールマガジン発行など電子媒体の活用、また、オープンキャンパスは年5回(レギュラー4回、キャンパス見学会1回)実施しました。

■経営管理

- 1.新学部「医療技術学部・臨床検査学」設置
医療系総合大学としての本学の特色を生かし、社会の要請に的確に対応できる高度な臨床検査技術養成を目的として「医療技術学部・臨床検査学」の設置について、2019(平成31)年度の開設に向け、2018(平成30)年5月、文部科学省への「学部の設置認可申請」及び「寄附行為の変更認可申請」を行いました。
- 2.人件費抑制
将来にわたる定時的・継続的な経営に向けた取り組みに早急に着手する必要性を踏まえ、役員年俸(12月)30%削減および人事院勧告に基づく給与改定の見直しを実施し、人件費の抑制を図りました。
- 3.自己点検評価
公益財団法人認定書基連協会が実施する「認証評価」に申請し、「大学基準に適合している」との認定を受けました。なお、認定期間は、2025年3月31日までの7年間です。
- 4.社会医療法人社団カシオサポロとの連携
2016(平成28)年4月に締結した「社会医療法人社団カシオサポロ」との連携協定に基づき、地域医療の充実を目指した連携事業の推進を図りました。
- 5.予算の効率化・削減
各部署に配付された予算の執行にあたって、事業計画に優先順位を付し、効率のよい執行に努めました。

■施設・設備

- 1.看護福祉学部棟マルチメディアAV機器の更新(20,156千円)
看護福祉学部棟マルチメディアAV機器を更新し、教育環境の整備を図りました。
- 2.看護福祉学部棟講義室空器の更新(9,979千円)
看護福祉学部棟講義室空器(N26-2講義室)を更新し、教育環境の整備を図りました。
- 3.リハビリテーション科学部学習支援センターの増設(2,019千円)
リハビリテーション科学部学習支援センターを増設し、教育環境の整備を図りました。
- 4.薬学部実習室(2-3階)機器の更新(3,324千円)
薬学部実習室機器等を更新し、教育環境の整備を図りました。
- 5.動物実験センター個別換気システムの導入(28,829千円)
動物実験センター個別換気システムを導入し、教育・研究環境の整備を図りました。
- 6.歯科クリニックユニット更新(25,565千円)
歯科クリニックユニットを年次計画により更新し、診療及び歯学部臨床教育における教育環境の整備を図りました。
- 7.当別キャンパス照明器具LED化の整備(8,621千円)
当別キャンパス照明器具LED化を整備し、構内環境の充実を図りました。
- 8.総合図書館エレベーターの更新(12,506千円)
総合図書館のエレベーターを更新し、構内環境の充実を図りました。
- 9.新中長期計画の検討
2009(平成21)年度に計画された「2020年行動計画」は9年目を迎え最終に見直し、創立50周年を含め将来を見据えた本学園の中長期行動計画を策定し、計画の柱を「教育」において「新中長期計画」の検討を進めていく予定です。

学校法人 東日本学園

2018年度予算

2018(平成30)年度当初予算は、3月20日開催の評議員会・理事会、予算の補正は、5月29日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2018年度予算の概要

概要

私立大学をめぐる経営環境はこれまで以上に厳しい状況にあります。近年120万人前後で推移してきた18歳人口は2018(平成30)年から更なる減少期を迎え、私立大学において志願者の獲得競争が一層激しさを増し、学生の安定確保が重要課題となっております。

こうした状況下においても、時代の要請に応えるための教育・研究の質を維持向上させるため、計画的な環境整備、施設整備を行う他、2019(平成31)年度の開設を目指す「医療技術学部・臨床検査学」設置申請を行います。さらには2024年の創立50周年を見据え、少子高齢化の中での生き残りをかけて「より魅力ある大学づくり」を継続していく予定です。

また、2018(平成30)年度の中産層編成では、収入面において、収容定員を基礎とする学生生徒納付金収入が大きく依存する傾向は変わらない中、収入増を見込むことは難しく、財政状況が見込まれ、限られた財源の下に、健全な計画を立て、本学の資源を最大限に生かしながら重要性・緊急性を勘案し、最小コストで最大効果を上げる事業計画を遂行していきます。

【資金収支予算書】

収入に関しては、前年度予算比2億9,678万円減の88億7,300万円を見込んでいます。科目別には、学生生徒等納付金収入、手数料収入、付随事業・収益事業収入において減収が見込まれております。

また、支出に関しては、前年度予算比7,231万円増の91億1,619万円を見込んでいます。主な増加としては、新学部設置に係る機器備品等の設備関係支出、老朽化した心理学部棟及び大病院のエレベーター更新工事、さらには心理学部棟改修工事に関する施設関係支出によるものです。

以上のことから、翌年度繰越支払資金は前年度予算比1億2,612万円減の65億1,603万円を見込んでいます。

【事業活動収支予算書】

事業活動収支予算書は、経常的収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」)および臨時的収支(「特別収支」)を区分してそれぞれの収支状況を把握できるように作成されています。

また、毎期の収支状況を把握できるように基本金繰入前の収支差額を基本金繰入後の収支差額が表示されています。

資金収支予算書

| 【総括表】 | 科 目 | 2018年度予算 | 2017年度予算 | 増 減 |
|-----------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 6,213,109,000 | 6,367,538,000 | △ 154,429,000 |
| | 手数料収入 | 100,921,000 | 104,543,000 | △ 3,622,000 |
| | 寄付金収入 | 54,000,000 | 58,000,000 | △ 4,000,000 |
| | 補助金収入 | 954,775,000 | 988,053,000 | △ 33,278,000 |
| | 資産売却収入 | 40,000,000 | 40,000,000 | 0 |
| | 付随事業・収益事業収入 | 1,262,073,000 | 1,396,288,000 | △ 134,215,000 |
| | 受取利息・配当金収入 | 40,030,000 | 40,030,000 | 0 |
| | 雑収入 | 326,806,000 | 323,389,000 | 3,417,000 |
| | 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 |
| | 前受金収入 | 682,896,000 | 685,480,000 | △ 2,584,000 |
| その他の収入 | 434,734,382 | 446,803,253 | △ 12,068,871 | |
| 資金収入調整差 | △ 1,236,342,500 | △ 1,280,337,350 | △ 43,994,850 | |
| 計 | 8,873,001,882 | 9,169,786,903 | △ 296,785,021 | |
| 前年度繰越支払資金 | 6,759,228,817 | 6,516,257,423 | 242,971,394 | |
| 収入の部合計 | 15,632,230,699 | 15,686,044,326 | △ 53,813,627 | |
| 支出の部 | 人件費支出 | 5,381,264,000 | 5,312,682,000 | 68,582,000 |
| | 教育研究経費支出 | 2,403,288,617 | 2,390,798,317 | 12,490,300 |
| | 管理経費支出 | 463,397,383 | 475,100,683 | △ 11,703,300 |
| | 借入金等返済支出 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| | 借入金等返済支出 | 100,000,000 | 100,000,000 | 0 |
| | 施設関係支出 | 422,036,000 | 280,076,000 | 141,960,000 |
| | 設備関係支出 | 362,523,000 | 317,555,000 | 44,968,000 |
| | 雑運用支出 | 0 | 0 | 0 |
| | その他の支出 | 595,350,675 | 744,666,611 | △ 149,315,936 |
| | 予備費 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 |
| 資金支出調整差 | △ 644,666,000 | △ 610,000,000 | △ 34,666,000 | |
| 計 | 9,116,193,675 | 9,043,878,611 | 72,315,064 | |
| 翌年度繰越支払資金 | 6,516,037,024 | 6,642,166,715 | △ 126,129,691 | |
| 支出の部合計 | 15,632,230,699 | 15,686,044,326 | △ 53,813,627 | |

①教育活動収支

事業活動収入の部は学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入及び雑収入の合計であり、総額88億9,868万円となります。一方、事業活動支出の部は、人件費の53億8,220万円、教育研究経費の資金収支計算書に計上された全額に減価償却8億7,365万円を加算した32億7,694万円、管理経費の資金収支計算書に計上された全額に減価償却6,980万円を加算した5億3,319万円です。よって総額は92億2,529万円となり、教育活動収支差額は2億6,611万円のマイナスとなります。

②教育活動外収支

事業活動収入の部は、受取利息・配当金の4,003万円です。一方、事業活動支出の部は、借入金等利息の300万円です。よって、教育活動外収支差額は4,303万円のプラスとなり、経常収支差額は2億9,958万円のマイナスとなります。

③特別収支

事業活動収入の部は、資産売却差額の4,000万円、現物寄付の2,000万円、施設設備補助金の1,300万円であり、総額7,300万円となります。一方、事業活動支出の部は、資産処分差額の2,849万円となり、その結果、特別収支差額は4,451万円のプラスとなります。

以上から、予備費の9,000万円を引いた基本金繰入前当年度収支差額は2億7,507万円のマイナスとなります。また、基本金繰入額の7億3,167万円を組み入れることにより、当年度収支差額は10億674万円のマイナスとなります。

事業活動収支予算書

| 【総括表】 | 科 目 | 2018年度予算 | 2017年度予算 | 増 減 | |
|---------------|------------------|------------------|---------------|---------------|-------------|
| 教育活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 6,213,109,000 | 6,367,538,000 | △ 154,429,000 | |
| | 手数料 | 100,921,000 | 104,543,000 | △ 3,622,000 | |
| | 寄付金 | 54,000,000 | 58,000,000 | △ 4,000,000 | |
| | 経常費等補助金 | 94,775,000 | 97,053,000 | △ 2,278,000 | |
| | 付随事業収入 | 1,262,073,000 | 1,396,288,000 | △ 134,215,000 | |
| | 雑収入 | 326,806,000 | 323,389,000 | 3,417,000 | |
| | 教育活動収入計 | 8,898,684,000 | 9,224,811,000 | △ 326,127,000 | |
| | 支出の部 | 人件費 | 5,382,204,000 | 5,316,860,800 | 65,343,200 |
| | 教育研究経費 | 2,376,947,617 | 2,357,234,317 | △ 20,713,300 | |
| | 管理経費 | 533,197,383 | 574,914,683 | △ 41,717,300 | |
| 徴収不能額 | 32,945,000 | 4,690,000 | 28,255,000 | | |
| 教育活動支出計 | 9,225,294,000 | 9,253,699,800 | △ 28,405,800 | | |
| 教育活動収支差額 | △ 326,610,000 | △ 28,888,800 | △ 297,721,200 | | |
| 教育活動外収入の部 | 受取利息・配当金 | 4,030,000 | 4,030,000 | 0 | |
| | その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | |
| | 教育活動外収入計 | 4,030,000 | 4,030,000 | 0 | |
| | 支出の部 | 借入金等利息 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| | その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | |
| | 教育活動外支出計 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 | |
| | 教育活動外収支差額 | 37,030,000 | 37,030,000 | 0 | |
| | 経常収支差額 | △ 289,580,000 | 8,141,200 | △ 297,721,200 | |
| | 収入の部 | 資産売却差額 | 4,000,000 | 4,000,000 | 0 |
| | | その他の特別収入 | 33,000,000 | 38,000,000 | △ 5,000,000 |
| 特別収入合計 | | 73,000,000 | 78,000,000 | △ 5,000,000 | |
| 支出の部 | | 特別収入 | 28,490,000 | 10,000,000 | 18,490,000 |
| その他の特別支出 | | 0 | 0 | 0 | |
| 特別収支差額 | | 28,490,000 | 10,000,000 | 18,490,000 | |
| 特別収支差額 | | 44,510,000 | 68,000,000 | △ 23,490,000 | |
| 予備費 | | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 | |
| 基本金繰入前当年度収支差額 | | △ 275,070,000 | 46,141,200 | △ 321,211,200 | |
| 基本金繰入額合計 | | △ 731,673,000 | △ 549,952,000 | △ 181,721,000 | |
| 当年度収支差額 | △ 1,006,743,000 | △ 503,810,800 | △ 502,932,200 | | |
| 前年度繰越収支差額 | △ 14,643,728,353 | △ 14,456,275,516 | △ 187,452,837 | | |
| 基本金繰入額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 翌年度繰越消費収支差額 | △ 15,650,471,353 | △ 14,960,086,316 | △ 690,385,037 | | |
| 【参考】 | 事業活動収入計 | 9,011,714,000 | 9,342,841,000 | △ 331,127,000 | |
| | 事業活動支出計 | 9,286,784,000 | 9,296,699,800 | △ 91,815,800 | |